

平成 21 年 6 月 12 日現在

|   |
|---|
| 研究種目：基盤研究(C)  |
| 研究期間：2007～2008  |
| 課題番号：19530681   |
| 研究課題名(和文) 幼稚園・保育園に在籍する外国人園児と保護者及び地域に向けた共生プログラム  |
| 研究課題名(英文) The Program of Living Together with Foreign Children/Parents in Kindergarten/Nursery School and for the Community |
| 研究代表者<br>志村 洋子 (SHIMURA YOKO)<br>埼玉大学・教育学部・教授<br>研究者番号：60134326   |

## 研究成果の概要：

本研究は、埼玉大学が位置する「さいたま市内」の幼稚園・保育園に在籍する、外国人園児とその保護者が抱える共生に関する緊急のニーズを把握し、幼稚園・保育園などを含めた地域を総合的に支援するプログラムを開発し、より広域な範囲にも提案できるものとするを目的として行った。具体的には、先進的な取り組みをしている幼稚園・保育園に聞き取り調査をし、多文化共生保育に関する保育者を対象とする研修プログラム、情報提供マップ、対話集の作成を行った。

## 交付額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2007年度 | 800,000   | 240,000 | 1,040,000 |
| 2008年度 | 900,000   | 270,000 | 1,170,000 |
| 年度     |           |         |           |
| 年度     |           |         |           |
| 年度     |           |         |           |
| 総計     | 1,700,000 | 510,000 | 2,210,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：外国人園児・幼稚園・保育園・保護者・共生

## 1. 研究開始当初の背景

これまで幼稚園・保育園の園長や保育者などに対する質問紙調査や聞き取り調査による研究で、外国人園児の受け入れに関する実態が明らかにされてきた。その結果、保護者とのコミュニケーションの問題が大きく、通訳や専門職員の配置、書類の翻訳等の必要性が浮かび上がってきた。さらに、そこで残された課題が、その後の外国人園児の就園状況

にも影響を与える可能性が分かってきた。また、外国人園児の保護者からは、就園を継続するに際しては、「言語」の違いがもっとも大きな障害になっていることが指摘され、外国人園児の家庭と園、そして地域の相互交流の必要性が明らかになってきた。しかし、これまでの多くの研究は提言に留まり、具体的な体制を作るための検討は少なく、特に就学前の段階については研究が非常に少な

かった。

現在、埼玉大学周辺のさいたま市桜区内の幼稚園・保育園では、埼玉大学に在籍する留学生の子どもを含め、両親あるいは片親が外国籍の子どもが増加している。特に、日本国内で多いとされる外国籍（中国・ブラジル・韓国・フィリピン・ペルー）以外の国、例えば、エジプト・スリランカ・インドネシア等の子どもが多い特徴がある。しかし、外国人の乳幼児やその家族を支援する体制が整っていないため、幼児が幼稚園・保育園に入園すると言語の相違だけでなく、文化や宗教などの様々な相違や慣習の違いがもたらすトラブルが生じていた。そのため、地域（さいたま市桜区）の実情に合った就学前の段階での支援体制が必要とされている。

## 2. 研究の目的

本研究は、以下の2点を目的とした。

- (1) 埼玉大学が位置する「さいたま市内」の私立幼稚園・公立及び私立保育園に在籍する、外国人園児とその保護者が抱える共生に関する緊急のニーズを把握すること
- (2) 幼稚園・保育園などを含めた地域を総合的に支援するプログラムを開発し、より広域な範囲にも提案できるものとする

## 3. 研究の方法

### (1) 聞き取り調査

共生プログラムを作成するにあたり、外国人園児を積極的に受け入れ、保護者や地域を含めたネットワークを形成している幼稚園・保育所において聞き取り調査を行った。

#### 1) 埼玉県私立A幼稚園

調査期間：2008年7月8日（火）

調査対象：園長、(外国人園児の担任経験のある)保育者5名、事務職員1名

#### 2) 東京都公立B保育園

調査期間：2008年11月26日（水）

調査対象：園長

#### 3) 神奈川県私立C保育園

調査期間：2009年2月6日（金）

2009年3月26日（木）

調査対象：副園長

### (2) 聞き取り調査と資料収集

以上の保育現場での調査に加えて、埼玉大学の立地するさいたま市桜区と埼玉大学国際交流会館における取り組みを調査した。

#### 1) さいたま市桜区役所

対象：区民課担当者

内容：さいたま市桜区の居住外国人への対応

#### 2) 埼玉大学国際交流会館

対象：埼玉大学国際交流会館職員

内容：埼玉大学国際交流会館での取り組み

## 4. 研究成果

### (1) 幼稚園・保育園の実態と支援体制

各園における聞き取り調査の結果は、以下の通りである。

#### 1) 埼玉県私立A幼稚園

外国人園児を比較的多く受け入れている園であり、現在はアジア・中東出身の園児が通う。

保育者の変化としては、外国人園児を毎年受け入れることを通して、保育者も成長しつつある。

支援体制としては、保育料等の減免や制服貸し出し、夏祭りの浴衣貸し出し等がある。

保護者への支援として、(保育者によっては)配布物に平仮名でルビ振りをしている。また、以前は、外国人の保護者を集めて、通訳も交えて保育者たちで話し合いをもっていた。しかし、最近では、日本語を話せる外国人保護者も多く、日本語の分かる外国人保護者と日本語の分からない外国人保護者が友達であるため、手続きなどはほとんど保護者に助けられている。

保育者は、外国人園児の保育に関して「問題はない」としつつも、保護者への情報発信の方法を模索中である。

(例 外国人園児が日本人園児にはさみを向けたとき、なぜそれがいけなかったのかを保護者に説明できないなど)

以前に埼玉大学乳幼児講座が中心となって、外国人園児の母語による対話集を作成したが、あまり活用されていないため、対話集を使いやすい形へ改良する必要性が浮かび上がった。

#### 2) 東京都公立B保育園

園児の保護者の出身国は12ヶ国にわたり、園児全体の70%位、クラスによっては、78.5%の園児が外国の背景をもつ。

保護者との関わりでは、相手を知ろうとする態度、園側が他国の習慣について「教えてもらう」姿勢であることが大切であると考えている。例えば、各行事の際には、保護者の母国では行事をどのように行うのか、など保育者が積極的にきいている。また、習慣の違いなどを規制する前に保護者の背景を尊重し、待つ姿勢である。さらに、園側・保育者等が多文化交流を楽しむという意識改革を

行っている。また、子どもたちは、韓国の歌や手遊びなどを楽しんでいる。

ただし、保育は、日本の保育を行っており、面接時に保護者に「日本の習慣、日本のルールで育てます」と話している。また、食習慣に関しても「ここは日本の保育園なので、日本のルール・日本の習慣と、文化も日本のものを伝えていきます」と伝えている。

保護者とのコミュニケーションでは、地域（区役所・小学校・幼稚園等）と積極的に連携を取り、電話による通訳や翻訳を依頼したり、情報交換を行っている。例として、行事の感想を保護者に母語で書いてもらい、それを日本語に翻訳依頼し、保護者の思いを知るようにしている。遠足の持ち物などは、絵で描いても伝わらないことがあるため、区役所の通訳担当者等に電話をし、電話を介して連絡事項を母語で伝えられるようにしている。

また、保護者にとって分かりやすいように、1日の流れや1年間の行事など、写真を用いて工夫をしている。クラス便りなど、園からの配布物はすべてルビ振りをして保護者に渡すようにしている。

### 3) 神奈川県私立C保育園

6ヶ国（6つの文化）を背景にもつ園児が在園し、両親の文化が日本のみの園児は1/3位である。ただし、国籍は圧倒的に日本国籍が多い。

園では、苦しみをもっている人たちから学ぶ姿勢で、どのようにその人たちに寄り添っていくかを大切に考えている。

保護者への支援では、園が独自で作成した言語別（6言語）の連絡帳を使用し、保護者が母語で連絡帳を書けるようにしている。さらに、園児と同じ背景や母語の外国人の職員（常勤）も2名おり、多言語による相談も行っている。

保育にも多文化を取り入れていれており、行事も多文化に配慮している。例として、多言語による壁画・献立表・手遊び・絵本・紙芝居、世界地図が用意されている。また、保育所では1日2回食事（昼食とおやつ）があるため、食べることも大切にしている。多文化な給食では、日本の地域文化（沖縄・北海道など）も含め、保護者からその文化の食事のレシピを教わり、園で調理している。園児の背景にある文化の食事を提供することに意味がある。

また、地域に積極的に関わり、行政とともに多言語による子育てガイドの作成をしている。さらに、（園児が入学するすべての）小学校訪問、教育委員会への働きかけも行っている。また、近隣の小学校4校・総合施設・保育園で交流会を設け、情報交換をしている。

これらの結果をまとめると、以下の3

点が明らかになった。

- ①それぞれの背景をもつ保護者・園児に対する運営主体の姿勢が、保護者と園児のニーズを汲み取る条件であること、そのため保育者の意識改革が求められること
- ②園側が、行政やNPO法人等に対し、積極的な地域連携、情報交換等、能動的に取り組みを実践し、子どもが園に在籍する期間だけでなく、その後の成長をも見通してネットワークを広げることが必要であること
- ③保育に多様な文化を取り入れることが、園児の他者の文化への尊重と、更に他者に対する寛容性や受容性を育む土壌となること

### (2) さいたま市・桜区と埼玉大学国際交流会館での取り組み

次に、さいたま市・桜区と埼玉大学国際交流会館での取り組みの結果を述べる。

#### 1) さいたま市・桜区

さいたま市の外国人人口は、市の総人口の約1.4%であり、その内の11%が、埼玉大学の立地する桜区に居住している。

桜区役所では、さいたま市の作成した市の情報誌の翻訳版を用意し、また「さいたま市国際交流協会(SAGA)」が毎月発行している情報誌「ぶらら」を区役所内に常時備えている。桜区役所では、各窓口で翻訳された資料等を配布する他、個別な対応を行っている。

さいたま市役所子育て支援課では、さいたま市の「児童手当制度」の内容を英訳したものを備えている。

#### 2) 埼玉大学国際交流会館

埼玉大学は、16カ国28大学と大学間交流協定を結び、また13カ国16の大学の諸部局と部局間交流協定を締結している。

留学生とその家族を入居者とする国際交流会館には、現在、中東、アジアを中心とする留学生が居住している。留学生の相談窓口としては、国際交流センターの「留学生相談室」が請け負っているが、留学生の家族の個別な生活上の事柄については、国際交流会館事務室に常駐する職員が対応している。

留学生、または留学生の配偶者からの、子どもに関わる相談内容のうち、幼稚園・保育所に関しては、安価な保育料、英語の話せる教員の有無などが聞かれる。

また、より喫緊の課題としては、医療にかかわる問題が多い。具体的には、イスラム教徒である場合は英語が可能な女医のいる産婦人科が必要であるが非常に稀である。また、乳幼児や児童をもつ留学生家族にとって必要な、英語対応の可能な小児科医も少ないこ

とが問題として挙げられ、妊産婦の検診や、児童の予防接種が受けられないこともあるという。そのため、国際交流会館の職員が診察室まで付き添うなど、個別の対応がなされている。

これらの結果をまとめると、以下の2点が明らかになった。

- ①埼玉大学国際交流センター、国際交流会館は、さいたま市桜区に居住する外国人にとって、重要な情報源であること。また、逆に言えば、この地域における外国人家庭がよりよい条件の下で子育てをしていくための要望が集約される場であること
- ②従って、埼玉大学を中心とする外国人園児及び保護者への有効な情報の提供が必要であり、それらの情報を外国人家族だけでなく、地域全体に発信することが、地域における共生において必要であること

以上の結果を受けて、外国人園児と保護者を含む総合的な支援体制の基盤づくりとして、多文化共生保育に関する幼稚園教員と保育園保育士を対象とする研修プログラム、埼玉大学を中心とする外国人園児及び保護者への有効な情報提供マップ、保護者と保育者とを繋ぐ有用な対話集の作成を行った。

本研究の特色は、外国人園児やその家族の日本語による言語コミュニケーションだけでなく、保育者「個人」に任されることで困難を感じている教員・保育者、園児やその保護者への対応を改善するための、実践的共生プログラムを作成したことにある。本研究において作成された支援プログラムは、今後現場において実践し、その有効性を検討していく。

なお、本報告書では、個人及び園の特定を避けるために、それらに配慮した表現に留めたが、今後論文等においては、今回の調査対象についての具体的な報告を行う予定である。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0件)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

○取得状況(計 0件)

〔その他〕

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

志村 洋子 (SHIMURA YOKO)  
埼玉大学・教育学部・教授  
研究者番号：60134326

### (2) 研究分担者

首藤 敏元 (SHUTO TOSHIMOTO)  
埼玉大学・教育学部・教授  
研究者番号：30187504

小田倉 泉 (ODAKURA IZUMI)  
埼玉大学・教育学部・講師  
研究者番号：10431727

佐藤 千瀬 (SATO CHISE)  
聖学院大学・人間福祉学部・講師  
研究者番号：60433661

### (3) 連携研究者